

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第5回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和7年1月28日（火）10時30分～

会場：仙都会館 7階 D会議室

意見交換内容

1) 前回の振り返り

2) 三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信

(1) 三陸沿岸地域紹介映像作成及び上映

●(一社)東北観光推進機構 紺野委員

- ・非常にしっかり取り組みがなされていると思っている。この映像だが、伝承ロード推進機構のウェブサイトへの掲載、SNSで発信したアクセス数というのはしっかりとらえているか。

●事務局

- ・アクセス数はカウントできる。

●(一社)東北観光推進機構 紺野委員

- ・映像作成やウェブサイトの写真を変えたりなんかしたときに全体的にどのぐらいの反応があるのか、あるいは移動データ取得できるので、そのデータと照合することによって、どこからアクセスしているとか把握できる。
- ・あるいは比較的時間が過ぎることによって、アクセス数の増減によってどのように次に展開していくかというような検証ができるとかと思うので、データ取ってしっかり掌握して欲しい。

●岩手日報 太田代委員

- ・三陸地域に、特に車で来て欲しいとなると、例えばサービスエリアのデジタルサイネージ等を活用してもう少し広い範囲で目に触れるようにすると来る人も増えるのかなと思う。

●東北地方整備局道路部 山本委員

- ・デジタルサイネージの話があったが、我々であれば例えば道の駅で流すということも考えられる。
- ・映像を前編立ち止まって見るというのは厳しいという方もいると思うので、例えばショート版があればもっと見やすくなると感じた。

●河北新報社 今里委員

- ・映像というのは、エリア全体の景観を含め施設の新設や廃止などで時間とともに変化していくが、バージョンアップ等に取り組んでいくイメージというのは持っているか。

●事務局

- ・作成したばかりでバージョンアップまでは現段階で考えていない。

●河北新報社 今里委員

- ・質問である。三陸縦断となっているが、陸前高田市から一気に東松島市に移動しており、気仙沼市、南三陸町、石巻市が抜けている理由はあるのか。

●事務局

- ・特に理由はなく、予算による長さ(尺)の問題から10分前後で何を表すかというところで特徴的なところのある施設、地域を採用した。

●(一社)日本旅行業協会 中村委員

- ・大変綺麗な画像なので他の地域の映像も増やしていき、観光の予習に使えればよいのではないか。

●岩手県北自動車(株) 柴田委員

- ・個人の方が自家用車で旅行することを想定して作成されていると思うが、個人が事前予約等をせずに現地を訪れても、すぐにガイド方の案内ができるわけではないことは、補足が必要ではないか。
- ・一日を費やして伝承施設を回るとというのが旅の目的になるのか疑問であり、別の目的に付随して伝承施設に行ってみるとの位置づけでプロモーションした方が、これは行ってみようと思わせるのではないかと感じる。

●南三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・「人に会いに行く」ということが表現されていると思った。
- ・映像の提供先は都市部でないと交流人口を伸ばすことは簡単なことではない。交通機関の待合室などで流すのはどうか。
- ・一般的な旅行形態一泊の方が多く、その行程に合わせた映像が良かったかもしれない。バージョンアップする機会があれば違う地域なども取り入れて、食の魅力も入れていただいた方が、動機付けになると思う。

●岩手県復興防災部 森田委員

- ・今後映像提供のルール、周知はどのようにするのか気がかりである。
- ・内容的に自動車を運転して三陸道を利用する方が対象に見えるが、バス、鉄道利用者も考慮する必要があるのではないか。
例えば、バスの走行シーンも入れたり、カスタマイズできる可能性を検討してほしい。

●(一財)VISIT はちのへ 阿部委員

- ・みちのく潮風トレイルを歩く人たちが増加している中、地域ごとの文化・歴史を紹介するという点で震災伝承施設は地域拠点施設になりうると思う。
- ・三陸沿岸地域の自治体や観光団体と今後情報共有を行い、うまく連動していくような取り組みができればよいのではないかと思う。

●奥村座長

- ・盛り込みたいこと、取り上げたいことというのは当然あるが、制約がある中での作成となっている。
- ・本検討会の目的としてやはり道路の活用というのを軸として挙げざるを得ない。せっかく作成したもので違うところにも活用できるような使い道それをこれから考えていただければよい。

- ・また別の方が作られるときに当然今回検討した経過の共有など開かれた活用方法を検討していくのが良い。
- ・続編の作成や更新を約束できる状況でもないので、足りないところはまた別の方に作っていただいて、自由にみられるような使いやすさを作っていくような場所の検討が大事。

2)地域活性化フォーラム

●南三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・気仙沼のフォーラムに出席したが、気仙沼の伝承館は地元の学生の拠点になっており、中学生がその伝承館で語り部の活動をするなど地域の住民の方が気軽に足を運べるところになっている。
- ・地元の方が親しみを感じると、お客様も比較的足を運ぶような場所になると思っており、非常にうまく運営されている一つの例ではないか。

●(一社)日本旅行業協会 中村委員

- ・気仙沼、釜石それぞれ聴講した。パネルディスカッションでは、女性のメンバーでそのパネリストを構成しており、女性観点・視点からいろいろ話を進めたということも非常に新鮮でいいものであった。

(3)3 年間の成果(実施報告書(案))

●宮城県復興・危機管理部 樋口委員

- ・関係者がしっかりと連携しながら取り組んでいくのが今後の我々の課題と思う。
- ・東日本大震災含めて、災害に意識のない方々にどうやってアプローチして地域に来てもらうのかということが非常に課題。三陸地域の伝承を中心にまとめてあり、今後しっかりと受けとめながら取り組んでいきたい。

●南三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・伝承館同士の連携は密になっているが、道の駅や宿泊施設との連携も密にしていきたい。
- ・来訪者は多くの時間を宿泊施設で過ごしており、宿泊施設ではパンフレットやチラシを並べて、旅に来た方たちのその案内役を務め、できるだけこの地域をよく知っていただきたい。経済効果が高まるように地元を進めたい隣の県もお知らせしたい隣の町のこともおすすめしたいという考え方を持っている。
- ・昼間に伝承施設を訪問された方が、宿で同じような内容を聞いてしまうなど、観光ルート・内容のバランスを研究する必要がある。例えば九州方面の方たちは、震災学習とスキーを絡めてコースを組まれている。

●岩手県北自動車(株) 柴田委員

- ・今後の課題として、潮風トレイルが注目されてきており、潮風トレイル連携するところで道路の活用、震災伝承館の活用にも繋がっていくと思う。